

【南九州地区納税貯蓄組合連合会会長賞】

税金、ありがとう。

芦北町立佐敷中学校

三年 一原 朱莉

私は、ある出来事が起こるまで、税金は何の役に立っているのだろうと税金の役割についてあまり知りませんでした。しかし、ある出来事がきっかけで税金は私たちの生活をよりよいものにするためにあると知り、感謝の気持ちをもつようになりました。

それは、今年の七月。私の弟が新型コロナウイルスに感染したときのことでした。弟は、ホテル療養をすることになりました。しかし、まだ小学生ということもあり、新型コロナウイルスに感染していない母が、つきそうになりました。母は、新型コロナウイルスに感染していないため、ホテルに泊まったときの宿泊代や食事代などがどうなるのかとても心配したそうです。なので、保健所のところにお問い合わせみたところ無料だと言われたそうです。私は、このことを聞いて驚きました。なぜなら、普通だったら一週間くらいホテルに泊まるとき、二人で約二十万円くらいかかるのにそれが無料だったからです。また、電気や飲料水など自由に使ったり飲んだりしてよかったり、洗濯で使ったりする洗剤などもすべて準備されていたとホテル療養から帰ってきたときに聞いて、それにも驚きました。しかし私にはある疑問ができました。それは、これだけのお金を誰が支払っているのかということです。そこで、調べてみると公費が使われていることが分かりました。公費とは、所得税や消費税など国民が納めたお金を集めたことを言うそうです。私はこのことを知り、今まで税金に対して間違った考えを持っていたことを反省しました。そして、税金は私たちの生活をよりよいものにするためにあると、この時に気づくことができました。日本でも私と同じように税金の使われ方について知らない人がいると思います。そういう人たちに、税金があることで私たちの生活はよりよいものになっていること、そして税金のありがたさについて知ってほしいと思いました。

これから、すべての人が安心して過ごせて笑顔であふれる日本にいくために、税金をすべての人が大切にしていける世の中になってほしいと思います。そのために私は、税金に感謝しながら一日一日生活することから始めようと思います。